

令和7年度 シラバス

教科	国語	科目	現代の国語	学年 学科 類型	1年 理数科・普通科
単位数	2	教科書	高等学校 現代の国語(数研出版)		
副教材等	高等学校 現代の国語 準拠ワーク				

学習の目標	<p>1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしましょう。</p> <p>2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしましょう。</p> <p>3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いましょう。</p>
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を収集し活用しながら他者との対話を通して、深い理解を目指します。 ・教材の解釈や報告、発表などの言語活動を積極的に行うことを通して、自己の思いや考えを深めたり広げたりします。 ・言葉を通して他者や社会に関わり、読書に親しむことで自己の向上を目指します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・対比の構造 ・一般論と主張 ・論理とレトリック 	<ul style="list-style-type: none"> ・概念の対立や矛盾といった対比を意識しながら読む活動を通して、論理的に考える力を伸ばします。 ・一般論と主張を分けて、筆者の主張を読み取り、主張と根拠を明確にしながら批評文を書く活動を通して伝え合う力を高めます。 ・本文に示されたレトリックの効果や意義を理解し、レトリックを意識して話す活動を通して、深く共感したり豊かに想像する力を伸ばします。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・具体と抽象 ・比較する ・実用の文章 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ことば」の仕組みについて具体と抽象の対応を捉えながら読む活動を通して、論理的に考え、自分の考えを広げる力を伸ばします。 ・主題に関連する複数の情報を自ら選び、他者に説明する活動を通して、自分の考えを深め、論理的に考える力を高めます。 ・企画書を書く活動を通して、複数の条件を整理して要点をまとめる力を伸ばします。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・視野を広げる ・思考を深める — 関連づけて読む ・実用の文章 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に目を向け、常識と思われていることを疑い検証する活動を通して、物事を批判的に捉え、自分の考えを広げたり深めたりします。 ・現在の課題を過去や未来との関係から捉え、解決策を発表し合う活動を通して、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。 ・社会問題について議論する活動を通して、深く共感し豊かに想像する力を伸ばします。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和7年度 シラバス

教科	国語	科目	言語文化	学年 学科 類型	1年 理数科・普通科
単位数	2	教科書	言語文化(数研出版)		
副教材等	高等学校 言語文化 準拠ワーク				

学習の目標	<p>1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしよう。</p> <p>2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしよう。</p> <p>3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いよう。</p>
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を収集し活用しながら他者との対話を通して、深い理解を目指します。 ・教材の解釈や報告、発表などの言語活動を積極的に行うことを通して、自己の思いや考えを深めたり広げたりします。 ・言葉を通して他者や社会に関わり、読書に親しむことで自己の向上を目指します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・古文 説話 随筆(一) ・漢文 入門 故事 ・近現代編 近代小説(一) 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の話の現代社会に通じる点を話し合う活動を通して、我が国の言語文化に対する理解を深めます。 ・漢文由来の命名の効果を考える活動を通して、言葉の持つ価値への認識を深め、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばします。 ・近代小説と古典を読み比べる活動を通して、論理的に考える力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりします。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・古文 歌物語 随筆(二) 和歌 ・漢文 史伝 漢詩 ・近現代編 現代小説 近代小説(二) 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じエピソードを記した複数の作品の比べ読みを通して、我が国の言語文化に対する理解を深め、豊かに想像する力を伸ばします。 ・中国の戦国時代の論客を調べる活動や、現代の日本語に取り入れられている唐詩の表現の語源について諸説を比べる活動を通して、言葉の持つ価値への認識を深め、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばします。 ・現代小説を読み、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりします。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・古文 日記文学 軍記物語 ・漢文 思想 文章 ・近現代編 近代小説(三) 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品に描かれた当時の人々の価値観を考察する活動を通して、我が国の言語文化に対する理解を深めます。 ・文章の書かれた当時の時代背景を踏まえて、筆者についての考えをまとめる活動を通して、論理的に考える力を伸ばし、自分の考えを深めます。 ・近代小説を読み、作品の設定と主題の関係を考察する活動を通して、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価

(備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和7年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	歴史総合	学年 学科 類型	1年 理数科・普通科
単位数	2	教科書	高等学校 歴史総合（第一学習社）		
副教材等	明解歴史総合図説シンフォニア 四訂版(帝国書院)、学習事項の整理と問題 歴史総合ノート(第一学習社)				

学習の目標	1 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を相互的な視野から理解します。 2 現代の諸課題を歴史的観点から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養います。
学習の方法	・中学時代には学習していない項目が多数ありますので、授業に集中することが大切です。 ・家庭学習では復習に重点を置きましょう。教科書とともに、授業中に指示された資料集の箇所は、家庭で熟読して理解を深めていくように心掛けていきましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学 期	第1部 歴史の扉 第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち 第1節 18世紀のアジアの繁栄 第2節 産業革命と市民革命 第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大 第4節 アジア諸国の変貌と西アジア 第5節 帝国主義の発展	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象をもとに、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解します。 ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア諸国と欧米諸国の貿易などをもとに、18世紀のアジアの経済と社会を理解します。 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命産業革命、国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などをもとに、国民国家の形成を理解します。 ・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などをもとに、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解します。
2 学 期	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1節 第一次世界大戦と大衆社会 第2節 経済危機と第二次世界大戦 第3節 第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成 第3章 グローバル化と私たち 第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	・第一次世界大戦の展開、国際連盟の成立などをもとに、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解します。 ・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策、第二次世界大戦の展開などをもとに、国際協調体制の動揺を理解します。 ・国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりなどをもとに、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解します。 ・冷戦と国際関係、人と資本の移動、食料と人口、エネルギーと地球環境などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けます。
3 学 期	第2節 国際秩序の変容と21世紀の世界 現代的な諸課題の形成と展望	・石油危機、アジア諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化などをもとに、市場経済の変容と課題を理解します。 ・持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的な経緯を踏まえて現実的な課題を理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解し、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を、解決を視野に入れて構想したりすることができ、また、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。	近現代の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度が身に付いている。また、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚が深まっている。
評価 方 法	・定期考査 ・パフォーマンス評価 ・課題	・定期考査 ・行動の観察 ・レポート	・出席状況 ・行動の観察 ・ポートフォリオ評価

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和7年度 シラバス

教科	公民	科目	公共	学年 学科 類型	1年 理数科・普通科
単位数	2	教科書	高等学校 公共(第一学習社)		
副教材等	最新公共資料集2025(第一学習社)、学習事項の整理と問題公共ノート(第一学習社)				

学習の目標	人間と社会の在り方についての見方や考え方を働かせ、現代の諸課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者として必要な公民としての資質・能力を身に付けます。
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を基本教材としつつ、資料豊富な副教材も活用しながら学習内容の定着を図ります。 ・日常的に日本や世界の出来事に関心を持ち、議論を交わす場面では、積極的に意見を述べていきましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学 期	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としての在り方 第3章 公共的な空間における基本的原理 第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・公共的な空間と人間の関わり、人間と社会の多様性と共通性などに注目し、社会に参画する自立した主体とは何か考えます。 ・他者と協働することに向けて、幸福、正義、公正などについて理解し、現代の諸課題について関心を高めます。 ・公共的な空間における基本的原理について、思考実験などを通して、個人と社会との関わりを多面的・多角的に考察します。 ・法や規範の意義及び役割について考え、それにより個人の自由や権利が保障され、社会の秩序が形成されることを理解します。
2 学 期	第1章 法的な主体となる私たち 第2章 政治的な主体となる私たち 第3章 経済的な主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した消費者としての在り方を考えるとともに、司法への参加意義を理解し、公平・公正な判断力を身に付けます。 ・政治の在り方と国民生活の関わりについて考え、個人が政治へ参加することによってより良い社会が築かれることを理解します。 ・現実社会の課題や問題を基に、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について考えます。 ・社会の変化に伴う雇用や労働環境の変化を理解し、望ましい職業観を形成します。
3 学 期	第3章 経済的な主体となる私たち 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済システムを機能させたり、国民福祉の向上のための政府の役割について理解し、現実社会の課題について考えます。 ・グローバル化が進展する国際社会における国際経済の動向について理解します。 ・公共の精神を持つ自立した主体として、持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた自身の役割について考えます。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養っている。	現代社会に生きる人間としての在り方・生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めている。
評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、単元評価、小テスト ・パフォーマンス評価 ・課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、単元評価、レポート ・ポートフォリオ評価 ・課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況、行動の観察 ・パフォーマンス評価 ・課題

(備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和7年度 シラバス

教科	数学・理数	科目	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ 理数数学Ⅰ・理数数学Ⅱ	学年 学科 類型	1年 理数科・普通科
単位数	6	教科書	高等学校 数学Ⅰ(数研出版)・高等学校 数学A(数研出版)・高等学校 数学Ⅱ(数研出版)		
副教材等	新課程 クリアー 数学Ⅰ+A(数研出版)、新課程 チャート式 解法と演習 数学Ⅰ+A(数研出版)				

学習の目標	数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間とのかかわりや、社会生活において数学が果たしている役割について理解し、数学に対する興味・関心を高めるとともに、数学を活用していく能力を身に付けます。
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書と並行して、教科書傍用問題集「クリアー」で演習を行います。予習・復習を徹底するとともに、疑問点の解消に向けて努力してください。 ・学習課題は必ず行い、提出物は期限までに必ず提出してください。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	数学Ⅰ 第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式 数学Ⅰ 第2章 集合と命題 数学Ⅰ 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式	<ul style="list-style-type: none"> ・式の展開と因数分解について学習します。 ・数を実数まで拡張する意義を確認し、数の体系についての理解を深めます。 ・身近な事象を1次不等式の問題に帰着させ、それを解く方法を学習します。 ・集合の考え方をを用いて必要条件、十分条件、対偶などを学習します。 ・2次関数のグラフの特徴について理解を深めます。 ・グラフを用いて、2次関数の最大値や最小値を求める方法を学習します。 ・グラフを用いて、2次方程式や2次不等式の解の求め方を学習します。
2 学期	数学A 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率 数学Ⅰ 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 数学A 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形 数学Ⅰ 第5章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> ・順列や組合せの意味について理解し、それらの総数を求める方法を学習します。 ・三角比の意味と相互関係について学習します。 ・正弦定理や余弦定理を用いて、辺の長さや角の大きさの求め方を学習します。 ・三角形、四角形、円に関する基本的な性質について学習します。 ・直線や平面の位置関係や、多面体に関する基本的な性質について学習します。 ・データを整理・分析し、事象の傾向を把握する方法について学習します。
3 学期	数学Ⅱ 第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明 数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について学習します。 ・等式や不等式が成り立つことの証明について学習します。 ・数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算を学習します。 ・因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求める方法を学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。
評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、小テスト ・発表 ・課題プリント ・ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、小テスト ・発表 ・課題プリント ・ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組状況観察(小テスト) ・発表 ・課題プリント ・ノート

(備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和7年度 シラバス

教科	理科	科目	化学基礎	学年 学科 類型	1年 理数科・普通科
単位数	2	教科書	化学基礎(数研出版)		
副教材等	化学基礎・化学問題集(愛媛県高等学校教育研究会理科部化学部門編)、サイエンスビュー化学総合資料(実教出版)				

学習の目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けます。 2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養います。 3 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養います。
学習の方法	・授業では、解説をよく聞き、板書等重要なことはノートに整理して記録してください。 ・観察・実験を行う場合は、「何故そうなるのか」を考えながら取り組むことが大切です。 ・小テストやプリント課題があります。学習した内容を振り返りましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1編 物質の構成と化学結合 1章 物質の構成 2章 物質の構成粒子 3章 粒子の結合	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な物質を整理・分類し、共通した要素や個々の相違点を調べることで、物質の成り立ちを深く学びます。 ・物質を理解する基礎として、物質を構成する基礎的な粒子である原子について深く学びます。 ・中学での内容をさらに深め、粒子がどのように結合しているのかなど、物質の性質と関連についても深く学びます。
2 学期	2編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 2章 酸と塩基の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・原子・分子・イオンなどの質量や気体の体積と、個数との関係を学びます。また、物質の考え方や化学反応式の表し方を身に付けます。 ・酸と塩基の定義を理解します。また、酸性・塩基性の強さの表し方を深く学びます。 ・中和反応の仕組みを深く理解します。
3 学期	2編 物質の変化 3章 酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化還元反応の定義を理解します。また、酸化剤や還元剤のはたらきや化学変化を化学反応式で表せるようにします。 ・金属によってイオンのなりやすさが異なることを深く理解します。また、酸化還元反応を利用して電池ができることを深く学びます。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。
評価 方 法	定期考査、授業ノート、行動の観察、観察・実験の観察(パフォーマンス評価)、小テスト、実験レポート	定期考査、授業ノート、行動の観察、観察・実験の観察(パフォーマンス評価)、小テスト、実験レポート	定期考査、授業ノート、行動の観察、観察・実験の観察(パフォーマンス評価)、小テスト、実験レポート

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和7年度 シラバス

教科	理科	科目	生物基礎	学年 学科 類型	1年 理数科・普通科
単位数	2	教科書	高等学校 生物基礎(数研出版)		
副教材等	・新課程リードα 生物基礎(数研出版) ・スクエア最新図説生物(第一学習社) ・生物基礎実験ノート(愛媛県高等学校教育研究会理科部会)				

学習の目標	1 実験や観察を通して、生物におけるさまざまな基本的な生命現象を理解します。 2 実験や観察を通して実験方法や観察方法、考察の方法などの技術を習得し、自らが探究していく能力を養います。
学習の方法	・新出用語や初めて学ぶ項目が多数あるため、まず、授業に集中します。 ・家庭学習では復習に重点を置き、授業で学んだ内容は問題集を繰り返し解き、教科書や資料集等を熟読することで理解を深めていくように心掛けます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	序章 生物基礎を学ぶにあたって 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき	<ul style="list-style-type: none"> ・生物基礎の内容の概要を把握し、顕微鏡の使い方を習得します。また、探究活動とは何かについて理解します。 ・生物は多様であるが、細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを学習します。 ・酵素のはたらき、光合成と呼吸のはたらきを通して、生物がエネルギーを得ていることを学習します。 ・遺伝子の本体であるDNAについて、構造及び遺伝情報はその塩基配列にあることを理解します。
2 学期	第2章 遺伝子とそのはたらき 第3章 ヒトの体内環境の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質合成について学習します。また、遺伝情報の複製についても学びます。体内環境がどのようにして一定に保たれるのか、体内でどのような調節が行われるかを学びます。循環系、腎臓と肝臓について学習します。 ・自律神経と内分泌系、免疫について詳しく学習します。免疫では、細菌やウイルスなどの病原体の攻撃を、どのように防御するか学びます。
3 学期	第4章 生物の多様性と生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・植生について、その構造や遷移とそのしくみについて学習します。森林・草原・荒原などの植生について理解を深めます。 ・地球上にはさまざまなバイオームが見られること、バイオームの分布は、主に気温と降水量によって決まることを例を取り上げ学習します。 ・生態系のなりたち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習します。 ・生態系は絶妙なバランスの上に成り立っていること、人類は生態系に影響を与えていることを学習し、自然環境の保全の重要性を学びます。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	考査の得点により知識・技能を身に付けていることを評価する。 課題プリントや実験ノート、の取組状況により、「知識・技能」を身に付けていることを評価する。	定期考査の思考力問題の得点や、課題プリント、実験ノート、ポートフォリオ(レポート)の取組状況により、「思考・判断・表現」力を身に付けていることを評価する。	観察・実験に意欲的に取り組んでいるか、その行動観察や実験ノート・課題プリントの取組状況により、「主体的に学習に取り組む態度」を身に付けていることを評価する。
評価 方 法	定期考査 課題プリント(パフォーマンス評価) 実験ノート	定期考査 実験ノート ポートフォリオ評価(レポート) 課題プリント(パフォーマンス評価)	実験ノート 行動の観察 観察・実験の観察 ポートフォリオ評価(レポート) 課題プリント(パフォーマンス評価)

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和7年度 シラバス

教科	保健体育	科目	体育	学年 学科 類型	1年 理数科・普通科
単位数	2	教科書	現代高等保健体育(大修館)		
副教材等	現代高等保健体育ノート				

学習の目標	<p>1 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けます。</p> <p>2 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養います。</p> <p>3 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養います。</p>
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動、球技・武道(選択)、ダンス・陸上競技(選択)を通して、自分で課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習活動を通して、心と体を一体としてとらえ生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育みます。 ・体育理論では、スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について学びます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・選択(ダンス・陸上競技) 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動を通して体を動かすことの楽しさや心地よさを味わい、心と体が互いに影響し変化することを学びます。 ・ダンスでは感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しみや喜びを味わい、表現や踊りの技術を高めて交流や発表ができるようにします。 ・陸上競技では、記録の向上や競走の楽しさや喜びを味わい、技能を高めます。主に障害走と跳躍を行います。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・選択2 (球技【ソフトボール/バレーボール/テニス】・武道) ・選択3 (球技【バスケットボール/サッカー/テニス】・武道) ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活に生かす運動の計画では、各自のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立てて取り組むことを学びます。 ・球技では、各選択種目で特有の技能の基礎・基本を習得し、仲間と連携する楽しさを味わい、次の学年で高いレベルのゲームができるようにします。 ・武道では、相手を尊重するとともに、礼法などの伝統的な行動を大切にし、得意技を用いた攻防が展開できるようにします。 ・スポーツの始まりと変遷、スポーツ文化、オリンピックとパラリンピックの意義について学習します。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技(長距離走) ・選択3 (球技【バスケットボール/サッカー/テニス】・武道) ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・長距離走では、自分と向き合い努力すること、粘り強く相手と競り合う強い心を養うことを目標とします。また、ペース配分をしたり、ペースの変化に対応したりするなど主体的に取り組むことができるようにします。 ・スポーツが経済に及ぼす効果、スポーツの高潔さとドーピング、スポーツと環境について学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。</p>	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。</p>
評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス評価 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・行動の観察

令和7年度 シラバス

教科	保健体育	科目	保 健	学年 学科 類型	1年 理数科・普通科
単位数	1	教科書	現代高等保健体育(大修館)		
副教材等	現代高等保健体育ノート				

学習の目標	1 個人および社会生活における健康・安全について理解を深めます。 2 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身に付けます。
学習の方法	現代社会は、生活習慣病や薬物、心の問題など健康にかかわる問題が少なくありません。また、健康の とらえ方や健康のために望まれることも変化してきました。そこで現代の健康問題や新しい健康のあり方 について、課題学習などを取り入れながら主体的に学習します。

学 期	単 元	学 習 活 動 と ね ら い
1 学 期	I 現代社会と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方や健康を成り立たせている要因について学習します。 ・わが国の健康水準の変化とその背景や現在の健康問題について学習します。 ・生活習慣病の種類と要因、一次、二次予防について学習します。 ・がんの種類や原因、一次予防と二次予防について学習します。おもな治療法や緩和ケア、がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について学習します。 ・健康と運動の関係や目的に応じた健康的な運動の仕方について学習します。 ・食事と健康の関係や健康的な食事のとり方について学習します。 ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方や健康により睡眠のとり方について学習します。
	01 健康の考え方となり立ち	
	02 私たちの健康のすがた	
	03 生活習慣病の予防と回復	
	04 がんの原因と予防	
	05 がんの治療と回復	
	06 運動と健康	
	07 食事と健康	
08 休養・睡眠と健康		
2 学 期	09 喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙者や周囲に対する害、喫煙対策について学習します。 ・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響、健康問題への対策について学習します。 ・薬物乱用が健康や社会に及ぼす影響や対策について学習します。 ・おもな精神疾患の要因と症状、予防について学習します。適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か学習します。 ・おもな感染症の潜伏期間や感染力、新興感染症と再興感染症が流行する要因について学習します。 ・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点についてや、予防と対策について個人と社会に分けて学習します。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の工夫について考えます。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について学習します。
	10 飲酒と健康	
	11 薬物乱用と健康	
	12 精神疾患の特徴	
	13 精神疾患の予防	
	14 精神疾患からの回復	
	15 現代の感染症	
	16 感染症の予防	
	17 性感染症・エイズとその予防	
	18 健康に関する意思決定・行動選択	
	19 健康に関する環境づくり	
3 学 期	II 安全な社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ・事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることを学習します。また、安全のために必要な行動や環境整備について学習します。 ・交通事故防止における取り組みと交通環境の整備や、交通事故における3つの責任について学習します。 ・応急手当の意義や傷病者を発見したときに確認・観察するポイントを学習します。 ・けがや熱中症の応急手当の手順や方法について学習します。 ・心肺蘇生法の方法と手順について学習します。
	01 事故の現状と発生要因	
	02 安全な社会の形成	
	03 交通における安全	
	04 応急手当の意義とその基本	
	05 日常的な応急手当	
	06 心肺蘇生法	

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、小テスト ・パフォーマンス評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、小テスト ・レポート ・パフォーマンス評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・出席状況 ・行動の観察

(備考) 1,2学期の定期考査は、期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。

令和7年度 シラバス

教科	芸術	科目	音楽 I	学年 学科 類型	1年 理数科・普通科
単位数	2	教科書	MOUSA1 (教育芸術社)		
副教材等					

学習の目標	1 音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を高め、主体的に学習に取り組みます。 2 音楽のよさや美しさを感じ取り、自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして創造的に表現します。 3 多様な音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に鑑賞します。
学習の方法	・外国語歌曲の歌唱等、中学校までの音楽の授業より難易度の高い内容です。授業での楽曲や演奏方法に関する説明をよく聞き、理解して演奏してください。 ・楽典と鑑賞の授業では、音楽の基礎的な知識を理解し、丁寧に楽譜を記入したり、音楽を深く味わって聴いたりしてください。

学期	単元	学習活動とねらい
1 学期	1 歌唱 校歌、イタリア・ドイツ歌曲 ポピュラー・ソング 2 楽典 楽譜の書き方 3 鑑賞 バロック時代	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の背景や歌詞の内容を理解し、イメージを持って歌います。 ・外国語歌曲の発音を学びながら諸外国の文化を理解し、表現を工夫して歌います。 ・楽譜と音符の書き方について学習します。 ・声や楽器の音色の特徴と表現上の効果を感じ取りながら鑑賞します。 ・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者の特徴を理解して鑑賞します。
2 学期	1 歌唱 ポピュラー・ソング ミュージカル音楽 2 器楽 クラシック・ギター弾き語り 3 創作 カップソング	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の背景や歌詞の内容を理解し、イメージを持って歌います。 ・楽曲が歌われる場面をイメージし、表現を工夫して歌います。 ・楽器の奏法を理解し、弾き語りをします。 ・楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏します。 ・創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら個性豊かに創作表現を創意工夫することを身につけます。
3 学期	1 器楽 ヴァイオリン 2 歌唱 合唱、卒業の歌	<ul style="list-style-type: none"> ・ヴァイオリンに触れ、西洋の文化的・歴史的背景や特徴を理解します。 ・ヴァイオリンの基本的奏法を習得し、表現を工夫して演奏します。 ・曲の背景や歌詞の内容を理解し、イメージを持って歌います。 ・合唱の響きを味わいながら、表現を工夫して歌います。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・実技テスト ・小テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・実技テスト ・小テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・出席状況 ・実技テスト

(備考) ギターとヴァイオリンについては、選択者全員で使用します。丁寧に扱い、授業後は整理整頓に努めてください。

令和7年度 シラバス

教科	芸術	科目	美術 I	学年 学科 類型	1年理数科・普通科
単位数	2	教科書	美術 1 (光村図書)		
副教材等					

学習の目標	1 様々な表現活動を通して自らの考えや気持ちを表現する楽しさを味わうとともに、基本的な知識や技術を身に付けます。 2 様々な作品を見たり批評し合ったりすることで、幅広い見方のできる鑑賞能力を伸ばします。
学習の方法	・すべての表現活動において、主にアクリル絵の具を使用します。 ・絵画、デザイン、立体造形、鑑賞、それぞれの学習項目の中に、美術を学習する上で大切な基礎となる内容が入ってきます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 身近なものを描く	・手のデッサンを通して、観察力、描写力、線の重ね方や明暗の諧調など、基本的な描法を学びます。 ・色彩の基礎を学び、効果的な配色やアクリル絵の具の特性を学びます。 ・単純な色と形を用いて、部活動のマークを作成します。 ・連想した言葉を組み合わせ、ありえないものや状況を構成し、表現します。 ・より面白い配置や構図を考えることで、構成力を身に付けます。 ・伝えたい内容が伝わりやすくなる色や構図、コピーを考え、ポスターを制作します。
	2 マークやサインで伝える	
	3 想像した世界を描く	
	4 メッセージを広く伝える	
2 学期	5 版画の技法	・抽象作品を鑑賞し、具象作品とは違う表現の面白さを学びます。 ・スクラッチガラスの制作と鑑賞を通して、ニードルによる彫りの表現と絵の具による色彩の表現の面白さを味わいます。 ・自画像の鑑賞を通して、なぜ自画像を描いたのか、何を描きたかったのかを考え、自身の作品に反映させます。 ・自画像制作を通して観察力を養うとともに、下塗り、上塗り、混色や補色など、絵画表現の基本を学びます。 ・他の生徒の作品を鑑賞することで、表現や発想の違いを理解し、自己理解他者理解を深めます。
	6 自己をあらわす	
3 学期	7 生命感をあらわす	・首降り人形の制作を通して、強調や省略して表現する面白さを学びます。 ・立体作品を制作することで、平面作品とは違う制作方法、鑑賞方法について理解を深めます。 ・映像メディア表現分野の芸術作品を鑑賞することで、新しい芸術表現の世界を味わいます。
	8 映像メディア	

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かに生活や社会を創造していく態度を身に付けている。
評価 方 法	・行動の観察 ・実技 ・作品 ・小テスト	・行動の観察 ・実技 ・作品 ・レポート	・行動の観察 ・出席状況 ・制作状況 ・作品の提出

(備考) 美術室の道具類は、美術選択者全員で使用します。丁寧に扱い、授業後は整理整頓に心掛けましょう。

令和7年度 シラバス

教科	芸術	科目	書道 I	学年 学科 類型	1年生理数科・普通科
単位数	2	教科書	書道 I (東京書籍)		
副教材等					

学習の目標	1 様々な書体を勉強し、古典の美に触れ、感性を磨きます。 2 古典を臨書し、様々な書体を書くための技術を身に付けます。 3 日常生活に即した、整った字の書き方を学びます。
学習の方法	・古典の臨書を通して、観察力や技術を学び、集中力を養います。 ・書の歴史を学び、作品への理解を深めます。 ・古典で学習した内容を、創作活動に活用します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 楷書	・書道用具や書道史の基本的なことを学習して、書道学習への心構えを身に付けます。 ・用筆法や字形の組み方を学習し、作品によって異なる書き方を学びます。 ・行書体の字の崩し方を学び、流動する用筆美を味わいます。 ・時代によって異なる書風を鑑賞し、臨書に生かします。 ・日本で発展した書の芸術美を味わいます。
	2 行書	
2 学期	3 隷書	・古典の用筆法を学び、簡略美を味わいます。 ・篆刻の方法を学び、それぞれの姓名を印材に刻します。 ・古典の臨書で学んだ字形や用筆法を生かして、漢字の書の創作をします。
	4 篆刻	
	5 創作(漢字)	
3 学期	6 仮名	・仮名の基本用筆を学び、平仮名の書き方などを学びます。 ・平安期の和歌を学習し、色々な散らし書きを学びます。 ・学習内容を生かして、漢字仮名交じりの書を創作します。
	7 創作(漢字仮名交じり)	

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け付けている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができている。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を身に付けている。
評価 方 法	・臨書への取り組み ・作品 ・小テスト	・応用力 ・感想文 ・作品	・学習の観察

(備考) 書道の道具類は、丁寧に扱い、後片付けもしっかり行ってください。

令和7年度 シラバス

教科	外国語	科目	英語コミュニケーション I	学年 学科 類型	1年 理数科・普通科
単位数	3	教科書	ELEMENT English Communication I (啓林館)		
副教材等	Vision Quest総合英語 Ultimate 2nd Edition (啓林館)、 Vision Quest New English Grammar 47 WORKBOOK (啓林館)、英単語ターゲット1400 (旺文社)				

学習の目標	1 英語を理解し英語で表現しようとする、コミュニケーションへの積極的な態度を育みます。 2 英語を読んだり聞いたりしたことに対する自分の感想をまとまりのある英文で表現できる理解力と表現力を習得します。 3 基本的な構文や文法、語彙を習得します。CEFRのA2以上取得を目標とします。
学習の方法	・辞書・文法書を活用し、自律的に英語を学習しましょう。 ・音読を大切にし、世界中の誰に対しても伝わる子音の発音、アクセントを身に付けましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学 期	Lesson 1 Intercultural Relationships	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化間コミュニケーションについて考えます。 ・自分のことについて話すこと、書くことを身に付けます。 ・文型、受動態、to不定詞について理解します。
	Lesson 2 Love beyond Species	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットを飼うことについて考えます。 ・ストーリー・レポートについて話すこと、書くことを身に付けます。 ・現在完了形、現在完了進行形、分詞の限定用法について理解します。
	Lesson 3 Contributing to Our Planet	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック問題について考えます。 ・身近な環境問題について話すこと、書くことを身に付けます。 ・勧誘を目的としたメールの文章を書くことを身に付けます。 ・関係代名詞、使役動詞について理解します。
	Further Reading 1 Toward Sustainable Development Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・平和について考えます。 ・平和について自分の意見を話すこと、書くことを身に付けます。 ・過去完了形、知覚動詞について理解します。
2 学 期	Lesson 4 Messages for World Peace	<ul style="list-style-type: none"> ・野球の投手と観審を行った審判の物語を読み登場人物の心情について考えます。 ・イラストの状況について話すこと、書くことを身に付けます。 ・困難な状況にある友人を元気づけるメールの文を書くことを身に付けます。 ・関係代名詞のwhat、関係副詞について理解します。
	Lesson 5 Respecting Each Other	<ul style="list-style-type: none"> ・言語と文化について考えます。 ・自分の好きなもの、日本文化について自分の意見を話すこと、書くことを身に付けます。 ・関係代名詞の非限定用法、分詞構文について理解します。
	Lesson 6 Language and Culture	<ul style="list-style-type: none"> ・セレンディビティについて考えます。 ・論理的に話すこと、書くことを身に付けます。 ・身近な事柄について短い説明文を書くことを身に付けます。 ・形式主語のit、be動詞の補語になるthat節について理解します。
	Lesson 7 Techonlogy and Discoveries	<ul style="list-style-type: none"> ・全人類の人権を保障するために何をすべきか考えます。 ・社会的な事柄について、短い英文や簡単な表現をつなげて発表することを身に付けます。 ・仮定法過去、仮定法過去完了、過去完了進行形について理解します。
3 学 期	Lesson 8 Standing Up for Human Rights	<ul style="list-style-type: none"> ・カナダの画家モード・ルイスの生涯を描いた英文を読んで、彼女の絵の特徴を理解します。 ・彼女の絵が今も愛されている理由を考えます。
	Further Reading 2 Picture without Shadows	

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	定期考査、単元テスト、パフォーマンステスト	定期考査、、単元テスト、パフォーマンステスト、レポート課題	言語活動への参加状況、パフォーマンステスト

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和7年度 シラバス

教科	外国語	科目	論理・表現 I	学年 学科 類型	1年 理数科・普通科
単位数	2	教科書	Vision Quest English Logic and Expression I Advanced (啓林館)		
副教材等	Vision Quest総合英語 Ultimate 2nd Edition、 Vision Quest New English Grammar 47 WORKBOOK、英単語ターゲット1400				

学習の目標	1 英語で表現しようとする、コミュニケーションへの積極的な態度を養います。 2 基本的な表現や構文・文法を習得し、英文の内容や相手の意図を正しく理解し、自分の考えを的確に表現できる英語の発信能力を育成します。 3 CEFRのA2以上の取得を目標とします。
学習の方法	・授業は、教科書の練習問題などを授業までに解答しておくことが前提になります。授業中の言語活動に参加できるよう、自分の力で解答する習慣を継続しましょう。 ・英語を読んだり聞いたりしたときや自分の意見を表現するときに、辞書や文法書を活用して、自律的学習を実践しましょう。

学期	単元	学習活動とねらい
1 学期	Lesson 1 I want to introduce my new friend. Lesson 2 How about joining our group? Lesson 3 I'm planning a day trip this weekend. Lesson 4 Have you ever tried it before?	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の部活動について紹介する英文を書いたり話したりします。 ・学校行事の計画について英語でディスカッションをします。 ・基本的な文構造や命令文、疑問文について学びます。 ・自分の旅行での経験を英文で書いたり話したりします。 ・過去の経験について英語で質疑応答を行います。 ・未来形、過去形、完了形について学びます。
2 学期	Lesson 5 What do you want to do after high school? Lesson 6 Did you hear about the new shop? Lesson 7 I'm happy to have you with us. Lesson 8 What sport do you like playing?	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢について英語で説明します。 ・ショッピングについて英語で会話をします。 ・助動詞や受動態について学びます。 ・英語で感情を表現し、手紙を書きます。 ・スポーツをすることのメリットについて自分の考えを英語で表現します。 ・不定詞や動名詞について学びます。
3 学期	Lesson 9 Digital media has come a long way. Lesson 10 That's why I decided to go back. Lesson 11 Which do you prefer, cheaper beans or more expensive ones? Lesson 12 If I were you, I'd see it as a positive.	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の個性について英語で説明します。 ・日本文化について英語で紹介します。 ・国際的な問題について自分の考えを英語で表現します。 ・社会で起きている問題について自分の意見を英語で表現します。 ・分詞、関係詞、比較、仮定法について学びます。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・パフォーマンステスト ・単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・パフォーマンステスト ・単元テスト ・ノートやレポート等の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・言語活動への取組状況 ・パフォーマンステスト ・ノートやレポート等の課題

(備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

教科	家庭	科目	家庭基礎	学年 学科 類型	1年 理数科・普通科
単位数	2	教科書	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる（第一学習社）		
副教材等	家庭科ノート・調理実習ノート基礎編（愛媛県家庭科教育研究会）				

学習の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育てることを目標とします。
学習の方法	家庭科ノート、調理実習ノート、資料等を用いて授業を行います。実験・実習を活用し、実際の生活で実践できるように、生活との関わりを意識しながら進めていきます。講義や実習・グループ活動等意欲的に取り組み、授業内容を参考にしながら、生活の中での問題点を発見し、自分で解決できる能力を身に付けていきます。

学期	単元	学習活動とねらい
1 学期	家庭科を学ぶみなさんへ 1章 これからの生き方と家族	・家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解し、考察したことを論理的に表現できるようにします。
	3章 充実した生涯へ	・高齢者の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深めます。 ・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割について問題を見だし、考察したことを論理的に表現できるようにします。
	4章 とともに生きる ホームプロジェクト	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解できるようにします。 ・自己の家庭生活について問題を設定し、解決策を構築し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現できるようにします。
	6章 衣生活をつくる	・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集ができるようにします。
2 学期	2章 次世代をはぐくむ	・乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解を深めます。 ・子供の健やかな発達のために親や家庭及び地域や社会の果たす役割の重要性について、問題を見だし、考察したことを論理的に表現できるようにします。
	5章 食生活をつくる	・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解します。 ・目的に応じた調理に必要な技能を身に付けます。
3 学期	7章 住生活をつくる	・ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解を深めます。 ・住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題点を見だし、考察したことを論理的に表現できるようにします。
	8章 経済生活をつくる	・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解します。自立した消費者として、生活情報を適切に活用できるようにしていきます。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
評価方法	定期考査、単元テスト、ノート、ワークシート、発表、実習	定期考査、ノート、ワークシート、課題、発表、実習	ノート、行動観察、課題、出席状況、発表、実習

(備考) 1 1,2学期の定期考査は、期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。

令和7年度 シラバス

教科	SS	科目	STREAM探究基礎	学年 学科 類型	1年 理数科・普通科
単位数	2	教科書	本校で作成したプリントおよび資料		
副教材等	本校で作成したプリントおよび資料				

学習の目標	<p>1 地域課題探究やデータサイエンス等の学びを通じて、論理的、多角的な視点から解決方法を考える手法についての理解を深め、教科等横断的に取り組むSTREAM型課題研究の基礎を身に付けます。</p> <p>2 先行研究との比較検証を行いながら社会課題の解決に向けた研究を行うことで、科学的探究力や創造力の向上を目指します。</p>
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイングディスカッション、講演会、データサイエンスの活用等を通じて得た学びを生かし、地域課題の発見や解決方法について、科学的な手法からアプローチします。 ・目標を明確に設定し、活動の記録をまとめ、蓄積していくことで、研究の成果と問題点、自己の成長を確認しながら課題解決に向けた研究を進めていきます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	<p>1 地域課題探究プログラム 「Regional Future Design」 ・南海トラフ地震事前復興デザイン探究</p> <p>2 ロボット技術講演会 I ・地域課題解決ロボットアイデア探究</p> <p>3 地域課題解決データサイエンス探究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災における復興の取組や課題について知り、愛媛県南予地域の事前復興に向けたまちづくりについて考えます。ロールプレイングディスカッションを通じて、多角的な視点から地域課題について考えるための基礎的な力を身に付けます。 ・高齢化社会における第一次産業について、変革をもたらすロボット活用について考えます。実習(企業と連携)や講演会を通して、地域課題と最新技術との関連性を学びます。 ・大学と連携し、RESAS(地域経済分析システム)等のオープンデータの活用について基礎的な力を身に付けます。(PPDACサイクル構築)
2 学期	<p>4 データサイエンス講演会 I</p> <p>5 課題研究基礎 ・プレ課題研究</p> <p>6 課題研究 ・班分け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と連携し、データ活用能力を高める取組を行います。 ・先行研究の調査から、研究テーマや仮説の設定、データの集め方、統計処理、仮説の検証方法やレポートのまとめ方、発表方法等を学びます。 ・プレ課題の取組を通じて、多角的、科学的思考力やプレゼンテーション能力等、課題研究を行うための基礎的な力を身に付けます。
3 学期	<p>7 講座内発表会 ・中間発表会</p> <p>8 振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究を深めるための工夫、必要なデータ、不足しているデータ等について確認し、研究内容を相互に検証します。 ・プレゼンテーションやポスター作成を通じて聴衆の前で研究の内容を分かりやすく発表する能力を身に付けます。作成、発表の場を多く経験することで、他者との関わり、チームや個々の能力を高めていく方法を学びます。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・宇和島市や南予地域に、どのような地域課題があるか理解している(農業・水産業・防災等)。 ・レポートの内容が正確である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の内容や考察について根拠を示しながら、分かりやすくまとめられている。 ・適切なデータ処理を行った上で、表・グラフ等を作成し効果的に活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会や研究に対し、事前学習、事後の振り返りを含め意欲的に粘り強く取り組んでいる。 ・学んだことを生かし、仲間と協働しながら改善したり、深まりを持たせたりしようとしている。
評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・ポートフォリオ評価(レポート) ・課題プリント(パフォーマンス評価) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・ポートフォリオ評価(レポート) ・課題プリント、発表会(パフォーマンス評価) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、検証の取組状況 ・ポートフォリオ評価(レポート) ・課題プリント ・発表会(パフォーマンス評価)

(備考) 定期考査は実施しない。